

ヒトを対象とした調査・研究に磨きをかけるコツ教えます 第1回

お客様にわかりやすいプレゼンテーション

佐々木 敏

独立行政法人国立健康・栄養研究所 栄養所要量策定企画・運営担当リーダー

はじめに

今回から4回程度の予定で、ヒトを扱う調査や研究を行う担当者や研究者、ならびに、その結果を業務などで活用している人たちを対象として、ヒトを対象とした調査・研究のレベルアップをめざした誌上ミニ講座を開きたいと思えます。

1回目である今回はプレゼンテーション（発表）について考えてみます。プレゼンテーションの良し悪しによって、120%の評価を得ることもありますし、誤解を招いてしまうこともあります。大切なことは、「発表者が伝えたいことが聞き手や読み手に正しく伝わって初めてプレゼンテーションは成功」ということです。プレゼンテーションは体裁でも儀式でもなく、「お客様に伝わってなんぼ」の世界なのです。では、「どうすればお客様に伝わるのか」ですが、科学研究ですから「伝えたいという思いは、感情ではなく、事実によって組み立てられた論理によって伝える」のが基本です。

プレゼンテーションの基本構造

プレゼンテーションは、文章による場合と口頭による場合とに大別できます。図1の上半分が文章による場合、下半分が口頭による場合です。

学会など発表に先立って提出する抄録は口頭による発表のほうにここでは分類します。そして、文章とは、論文や報告書のように内容を詳細に伝えることを目的とする文章のこととします。

両者がもっとも大きく異なる点は、「書きことば」と「話しことば」という違いですが、「表」と「図」という違いもあります。表から図を作ることはできませんから、情報量の厳密さと豊富さは、多くの場合、表に軍配があがります。しかし、ぱっと見ての理解しやすさは図のほうが優っているでしょう。ていねいに内容を伝えることができ、かつ、図を描くための情報を提供できる「表」は文字による発表に適していて、視覚に訴えられるが厳密さに難がある

**共通** タイトルはていねいに（長くてもよい）  
専門用語や略語はできるだけ使わない  
空想・想像は禁物（当たり前と思うことでも必ず文献でチェック）

文章による発表



書き落としないように書き込む  
図よりも表（表から図は作れるが、逆は無理）  
参考文献リストは必須

口頭による発表



概論は最小限に  
科学性をある程度犠牲にしても文字数を減らす  
表よりも図（必要最小限）  
ゆっくりと話す

図1 科学研究におけるプレゼンテーションの基本

「図」は口頭発表に適しているとなります。また、口頭発表では、スライドやOHPを映しながら発表するのが通例ですが、1枚のスライドに入れられる文章は最大10行くらいです。それ以上になりますと、会場の後ろのほうにいる参加者には読みにくくなりますから、この場合、厳密さを多少犠牲にしても、字数や行数を限りたいものです。

蛇足ながら、スライドやOHPは横長が基本です。縦長ですとスクリーンに収まらないことがあるからです。一方、文章は後々まで残りますし、読み手のスピードで読むことができますので、小さな文字でもそれほど問題になることはありません。この場合は、見た目よりも緻密さを重視したほうがよいということになります。

図2にプレゼンテーションの内容とバランスの基本を示しました。①序論、②方法（対象と方法、と呼ぶ場合もある）、③結果、④考察、⑤参考文献の5つの部分から構成されるのが一般的です。左が論文などの場合、右が抄録や学会などでの口頭発表の場合です。基本構造のバランスも互いに異なります。しかし、いずれの場合も「結果は方法に依存する」という基本原則を忘れず、「方法」にこそ、もっとも時間と労力と字数を注ぎたいものです。しかしながら、極

端に「結果」を削ると報告の意味がなくなってしまう。したがって、字数や話し時間の多少にかかわらず、「結果」にはこれ以上短くできないという限界があります。そのため、全体の時間や字数の制約が厳しい学会発表や抄録では、結果の占める割合が相対的に大きく、その他、特に「方法」は小さくならざるを得ないということになります。だからといって、結果を理解するのが難しくなるほどに「方法」を削ってしまい、結果ばかりを長々と述べるのは本末転倒です。

当たり前のことですが、科学的な研究報告に科学的根拠のない空想が混入してはなりません。研究において、推理や仮説は大切ですが、すでに観察された事実と推理や仮説とはしっかりと分けられなくてはなりません。そこで不可欠なのが参考文献、しかも質の高い参考文献です。

このような事情を考え、全体のバランスを考えると図2のようなものではないかと思えます。これは、英文学術雑誌や国際学会の抄録を参考に、筆者の感覚で決めてみたものです。手元に日本の学術雑誌や学会抄録集があれば、見比べてみてください。その違いに気付いていただけたらと思います。

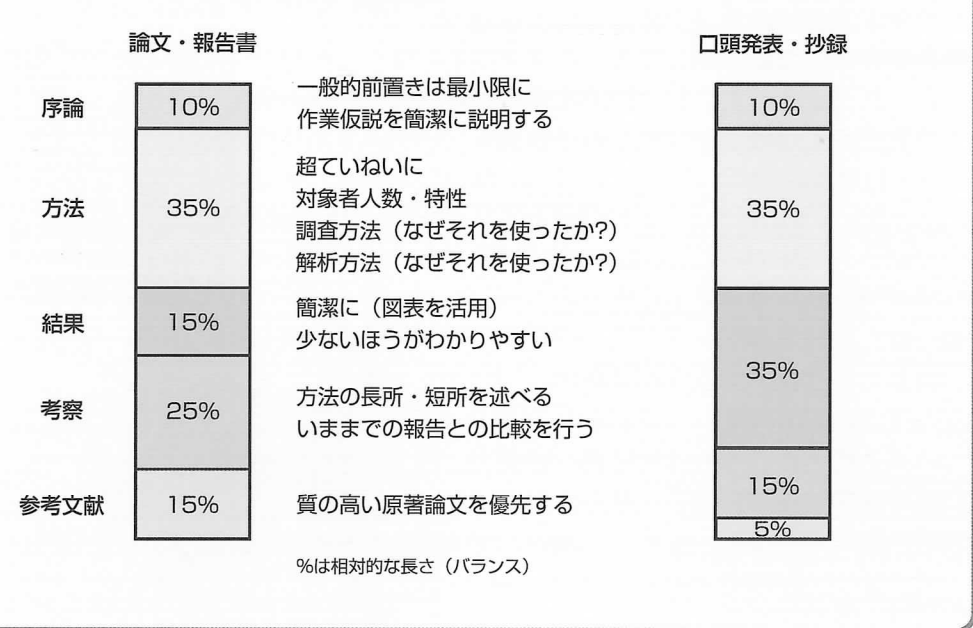


図2 プレゼンテーションの内容とバランス